

教員名	鷹野 光行 (TAKANO Mitsuyuki)
所 属	文教育学部人間社会科学科教育科学講座
学 位	文学修士 (1974年 東京大学)
職 名	教授
URL / E-mail	takano.mitsuyuki@ocha.ac.jp

◆研究キーワード

学芸員養成 / 考古学 / 火山噴火埋没遺跡

◆主要業績

総数 (4) 件

- ・鹿児島県指宿市 敷領遺跡の調査
文部科学省科学研究費補助金特定領域研究
「わが国の火山噴火罹災地における生活・文化環境の復元」による発掘調査報告書
- ・「火山で埋もれた都市とムライタリア・日本・インドネシアー」
指宿市考古博物館時遊館 COCCO はしむれ 開館10周年記念フォーラム報告書
- ・「博物館ボランティアを考える」
お茶の水女子大学博物館実習報告 22号 pp.67-73
- ・フォーラム「火山で埋もれた都市とムライタリア・日本・インドネシアー」を開催してアンケートの集計からー
指宿市考古博物館時遊館 COCCO はしむれ 博物館年報・紀要第7号 pp.48-51

◆研究内容

2004年度から交付を受けている文部科学省科学研究費補助金（特定領域研究）による「わが国の火山噴火罹災地における生活・文化環境の復元」の研究をすすめた。今年度は貞観16（874）年の開聞岳の噴火により拡散した火山灰の分布と堆積状況を指宿市内12ヵ所においてボーリングによる探査を行い、弥生時代以降の開聞岳の噴火による罹災と遺跡の消長についての成果を得た。またこの過程で、開聞岳に近い地域の土取作業中の現場で貞観16年噴出の火山灰に覆われた慶固遺跡を新たに発見し、緊急の調査をおこなったが、その結果、畠跡と道跡が検出された。今回の畠の発見は、付近にそれを営んだ人々の集落の存在を示唆しており、噴火口により近いエリアで、どのような災害が発生したかなど、平安時代の開聞岳噴火について、その災害の詳細を知る大きな手がかりを得られるものと期待される。これらと平行して、日本列島の北海道、島原半島、イタリア、ハワイ島、韓国の済州島における火山噴火罹災遺跡に関する状況の視察・現地踏査を行った。研究対象地の相対化を図った。

◆教育内容

[学部]1.博物館実習:実習履習者24名について、学内実習、実務実習、見学実習を実施。2.博物館活動特殊講義:博物館の教育活動、経営上の諸問題、情報の蓄積・発信機関としての博物館などについての講義である。3.博物館資料特殊講義:博物館活動の根幹をなす資料の取り扱いについての講義。4.考古学通論1/2:考古学の定義、研究法、など縄文時代を題材として講義した。5.社会教育特講3:文化財の保護について、歴史、制度、外国の状況、埋蔵文化財の諸問題を講義した。

[大学院]1.博物館教育論:博物館の教育活動の実態について、館報などを題材として実情の調査/報告によるディスカッションを演習形式でおこなった。2.文化マネジメント論演習:文化マネジメント副専攻の主要な科目として位置づけた授業で、これまでの大学資料員会による学内資料調査結果を受け、学内資料による展示会開催を目指しての時間であった。成果は2月に「日本初の幼稚園ー120年前の幼稚園を体験しよう」として「大学資料館」を会場として実施した。

◆共同研究例

学芸員養成と資質の向上について

◆将来の研究計画・研究の展望

科学研究費の特定領域研究があと3年で終了するので、ここ数年、その研究結果をきちんとまとめることが必要である。

また、学芸員の養成の在り方が変わろうとしているのでそれへの対応を考えなければならない。

◆受験生等へのメッセージ

大学では高校までにはなかったさまざまな分野の研究／教育がおこなわれます。また学芸員をはじめとして各種の資格／免許が大学の学修によって得られます。新しい分野に好奇心を持って、チャレンジして行って欲しい。